

乗用車の進化

赤谷慶子

車好きの父に似たりや、數年に一度の頻度にて車買ひ替へたり。二十三歳の初任給にて富士重工のスバル一〇〇〇、その後車檢のたびに買ひ替へ、いすゞのベレットGT、日産ブルーバード・マクシマと國産車なりき。その後はなかなか經年劣化し難き獨車に變へ、五年に一度の頻度になりたり。昨年は丁度五年目となりけれど、電気自動車出現するを待ちわび、六年目に突入せり。されど、獨人の義弟、曰く電気自動車は機關を廢棄するの儀叶はねば、環境に負荷あり、好ましからずと主張す。宜^{うべき}なるかなと納得し、従前と同様ディーゼルのターボチャージャーを選びたりき。今年長月に八代目となる愛車購入せり。前の車は排氣量も大きなる六氣筒車にて、今回の四氣筒車は排氣量も半分になりたり。すべて獨逸にはエンジン縮小するの傾向あり、排氣量の大きなる車種はAMGに限るとヤナセの擔當者に言はれたり。フロントパネルはさながらデジタル畫面になりて、エンジン切るとパネル板は消滅す。電気系統故障せばいかならむやと心もとなくなりもせり。高速道路の走行は常に同じ速度にて走るべくクルーズ機能あり。加へて道路の白線より車はみだすと白線内に収まるやう自主軌道修正の裝置あり。通行人を感じすれば急制動かかるによりて、人混みの中を走るは注意を要す。然れば殆んど自動運転車なり。縦列駐車は我最も得意とするわざなれば、駐車誘導機能は不要なけれど、機能以前より進化しをり、眞上、横等多方面より見ゆれば、そは使はんとす。車の窗半開きになりたりや、車に鍵かけ忘れたりすと、携帯電話に聯絡入る。音楽はこれまでCD挿入にて聴くを得たれど、新車はiPhoneへ好みの音楽ダウンロードし、それを車のBluetoothを開け接續するを要す。車を遠隔操作にて走らすは能はねど、他のおよその事は遠隔にて操作するを得。されど、運轉を車に任すとも安全ならむか、少々心もとなし。

(令和二年十二月三十日受附)